

令和7年度和歌山県普及指導計画実績発表会における評価・意見結果

- 1 目的：普及指導員が地域の農業振興及び担い手の育成・支援のために行った普及活動の取組実績を発表し、その取組及び実績に対して、和歌山県農業改良普及連絡協議会員からの幅広い意見や評価を受け、次年度以降の取り組みに反映させる。

2 実績発表会の概要

- (1) 日 時：令和8年3月19日（木）13:30～16:30
場 所：和歌山県自治会館 201・202号室

- (2) 出席者：和歌山県農業改良普及連絡協議会員（12名出席）、各振興局、経営支援課協議会員の構成

分 野	人 数
先進的農業者	1名
若手または女性農業者	1名
農業関係団体	5名
消費者	1名
学識経験者	1名
マスコミ	1名
民間企業	1名
行政	3名

(3) 発表内容

令和6～8年度普及指導計画 重点プロジェクトの実績報告

NO	振興局	課 題 名
1	海 草	若手生産者を中心としたいちご産地の再興
2	那 賀	次代を担ういちご生産者の確保・育成
3	伊 都	伊都地域の将来を見据えた担い手対策
4	有 田	有田みかん産地 産地受入協議会を軸とした新規就農者の確保及び育成支援
5	日 高	クビアカツヤカミキリ対策の強化とうめの安定生産による産地強化
6	西牟婁	うめの超省力枝梢管理技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持
7	東牟婁	いちご産地の維持活性化 やる気のある産地づくり

3 評価結果：

- (1) 会員からの活動実績及び普及指導計画への提言

○新規就農者への支援について

- ・新規就農者にはもっと寄り添った支援を意識してフォローをしていく必要がある。
- ・農業への新規参入では、空き家や倉庫などが無いことが障壁となる事もあるため、地域の市町等と連携し次世代に譲り渡すようなシステムについて検討いただきたい。
- ・地域を守るという意味で、関係機関を巻き込んで産地全体で取り組みを広げることで新規就農者の定着につながると思う。
- ・半農半Xや九一農業など、多様な担い手を意識しながら産地全体で担い手の確保について検討していただきたい。

- Uターン、Iターンでは対応が異なるため、対象者にあわせた対策を検討いただきたい。
- 第三者継承をすすめる手法として、ワーキングホリデーの方に農作業をお願いしつつ地域への定着を勧めることや農福連携による農地の維持と新規就農者にバトンタッチする体制整備など様々な対策を検討いただきたい。

○技術的課題の解決について

- 近年、高温障害の影響がミカンで出てきており今後栽培が難しくなると思われるため、安定生産に向けた高温対策や技術対策、新品目導入等の検討していく必要があると思われる。
- クビアカツヤカミキリ対策については早期発見が非常に重要であることから、県や市町等の関係者、農家だけでなく、地域住民にも協力していただき、産地一体となって対策に取り組んでいく必要がある。

○農業経営への指導について

- 技術的なサポートだけでなく、経営面についてもサポートしていただきたい。
- 付加価値の高い加工品を作ることで、農家の所得を上げていくという取り組みも検討していただきたい。

(2) 普及全般への要望・意見

- 近年の異常気象により、夏場の温暖化対策や高温対策などの対応が必要と考えられることから、対処法など研究していく必要がある。また、県として対策に係る支援や補助なども今後検討していただきたい。
- 産地を維持するためには、プロジェクトをこれまでと同様に粛々と進めるだけでなく、新たな切り口で新しい取り組みをすることも必要だと思われるので、プロジェクトの内容もご検討いただきたい。
- 産地振興そして担い手育成をするためには、技術面だけでなく経営面のサポート、住居や倉庫の確保などが重要である。市町村やJA、大学等の関係機関が一体となって総合的な取り組みを進めていくことにより、和歌山県の農業の発展、そして産地の活性化につながっていく。